

事業名：研究開発学校 小学校英語科

校名：東広島市立西条小学校

所在地：東広島市西条中央二丁目15番1号

H P : www2.city.higashihiroshima.hiroshima.jp/saijo-sho

学校規模：29学級 878名

## 1 研究の概要

### (1) 研究テーマ及び研究のねらい

#### ①研究テーマ

コミュニケーション能力を育成するための新教科「英語科」を効果的に実践するための教育課程、指導方法、評価方法、中学校段階の教育課程への接続の在り方についての研究開発

#### ②研究テーマ設定の理由

平成16年度より研究開発学校の指定を受け、全学年に「英語科」を新設した新たな教育課程を編成し、英語を通じた基礎的なコミュニケーション能力を養うとともに豊かな国際感覚を身に付けた児童の育成をめざしている。研究開発指定前の平成16年3月時点では「英語が好きだ」と答える児童が85%であったが、これまでの2カ年の取組みにより平成18年3月時点では95%に伸びている。豊かに自己表現することが苦手な児童も英語科の学習では、心を解放し、楽しそうに学習している様子が伺える。また、外国の人々と積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童も増えてきた。

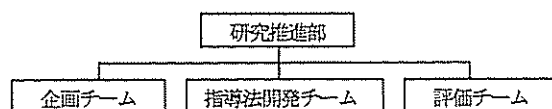
このような実践の効果を受け、本年度も英語を通して、次のようなねらいで小学校英語科カリキュラム開発、指導方法・評価方法を研究していくことにした。

#### ③研究のねらい

全学年に「聞く、話す」を中心とした英語科学習を位置付け、発達段階に応じた楽しい英語科の学習を工夫し、あいさつや簡単な日常会話ができるような実践的なコミュニケーション能力の基礎を養うとともに、豊かな国際感覚を身に付けた児童を育成するためのカリキュラム、教材、指導方法の充実を図る。

### (2) 研究組織・体制

※カリキュラム、指導方法、評価方法の研究開発については、次の3チーム体制によって進めている。



※英語科の授業改善については、各教科等部会（国語、算数、英語、道徳）の中の英語部会が中心になって推進している。

### (3) 研究内容

#### ①効果的な教育課程の編成

・ショートとロング(ShortとLong)を組み合わせた効果的な指導

#### ②中学校の教育課程への接続の在り方

・中学校の英語科学習のねらい、内容の分析  
・小学校段階で身に付けておきたい力の明確化  
・本校卒業生の追跡意識調査の実施とその結果分析

#### ③学習効果を高める教材・教具の開発

・他教科との関連を図った教材  
(国語科、算数科、生活科、総合的な学習の時間等)  
・問題解決的な学習を取り入れた指導方法の工夫・改善  
・フォニックス法を取り入れた発音指導の実施とその効果の検証  
・楽しみながら発音を学ぶビデオ教材の活用とその効果の検証  
・英語科副読本の活用とその効果の検証

#### ④実践的な英会話力を高める学習形態や指導方法の在り方

(広島大学の協力を得て研究)  
・推進体制の確立(企画、指導法開発、評価)  
・学習目標の明確化(低・中・高学年)  
・3BIG(BIG VOICE, BIG EYES, BIG ACTION)によるコミュニケーション能力の捉えに係わる意識統一  
・年間指導計画の作成(低・中・高学年の系統性 他教科との関連)  
・評価方法の研究(評価規準・英語科通信の作成、西条小学校版英語検定E-TRYの実施)  
・授業研究(年間6回 指導内容・方法を協議)

## 2 研究仮説

次に示す3点の仮説を立て研究を推進した。



#### 【仮説①】

「学ぶ場」と「生かす場」を「ShortとLong」で構成し、「聞く・話す」を中心とした実践的な英語学習を積み重ねていけば、英語によるコミュニケーション能力の基礎が育つであろう。

#### 【仮説②】

他教科で学んだことを英語科に生かす教材を開発することにより、児童の学習意欲・関心が高まり、コミュニケーション能力を高めることにつながるであろう。

#### 【仮説③】

児童の日常生活に身近な内容を取り上げ、体験的学習、問題解決的な学習を工夫すれば「英語」を好きになり、継続的な学習ができるであろう。

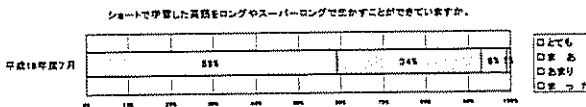
## 3 研究の成果と課題等

### (1) 成果

#### ①英語科の効果的な指導について

【検証の視点① 「学ぶ場」と「生かす場」を結びつけた効果的な指導の在り方 ～事例1～】

「学ぶ場」である「Short」で、動作を交えた歌やチャントによる反復練習をすることによって、英語を聞いたり話したりする力を児童に身に付けさせた。そして、「生かす場」である「Long」でその身に付けた英語を使って、児童は、友達やHRT, ALT, JTEと意欲的に会話を楽しんだ。このことから、「ShortとLong」という性格の違う2つの学習の場を設定し、「学んだことを生かす」という考えに立って、それぞれの場でねらいを明確に分けて指導を行うことは、児童のコミュニケーション能力の基礎を育てることにおいて有効であることが分かった。



【検証の視点② 他教科との関連を図った効果的な指導の在り方 ～事例2～】

国語科で学習したことを、英語科の教材で生かすことによって、児童の学習意欲を高めることができた。また、国語科、英語科に共通した「話すときの目標」を設定することにより、英語科でねらう児童のコミュニケーション能力（はっきりした声で話す、目と目を合わせて話す、身振り・手振りを付けて話す）への意識は大幅にアップした。このことから、英語科を他教科と関連させることは、児童の学習意欲やコミュニケーション能力を高めることに有効な手立てであるといえる。

【検証の視点③ 学習意欲を高める問題解決的な学習の在り方 ～事例3～】

児童に「友達を英語で紹介できるようになるためには？」という問題を設定しその問題を解決していく中で、友達の良いところをインタビューしたり、友達の良いところを言い表す英単語をインターネットや英語絵辞典で調べたりする活動を行った。このような問題解決的な学習を英語科の学習に取り入れることは、児童の英語学習への意欲を高め、コミュニケーション能力を高めることにつながった。高学年においては問題解決的な学習を仕組み、自分の話したい英語を話すための調べ学習を行うことは児童の英語への学習意欲を高める上で大変有効な手立てであることが分かった。

②英語科の指導にかかわる研究開発内容について

3つの研究開発チームが、それぞれ開発した内容は次のとおりである。

【企画チーム】

- ・西条小学校版英語科学習指導要領（試案）

【指導法開発チーム】

- ・フォニックス法に基づいた発音指導ビデオ

- ・英語科副読本

【評価チーム】

- ・評価規準・基準

- ・西条小学校版英語検定E-try

これらの研究によって、小学校から英語科を導入することは、児童の英語への意欲・技能を高め、コミュニケーション能力の向上に繋がることが明らかになった。また、卒業生への意識調査では、92%の生徒が小学校英語は役に立つと答えていることから、中学校英語への円滑な接続が図られたと考える。このことから、小学校から英語科を取り入れることは有効であるといえる

(2) 課題

今後も児童の実態に応じた英語科指導の充実を図り、児童のコミュニケーション能力を高める指導方法の充実を図る。そのために、以下の内容についてさらに研究を積み重ねていく。

①カリキュラムの工夫・改善

- ・児童実態と合致した内容への深化を図る。

②3BIGを意識した指導方法の工夫・改善

- ・英語科副読本の内容及び活用方法の工夫・改善を図る。
- ・フォニックス法による発音を重視した指導方法を工夫し、効果の検証を行う。
- ・本校独自の英語検定を実施し、児童の英語力向上を図る。

③中学校教育課程への接続の研究の深化

- ・授業観察・意見交流等、中学校との定期的な連携会議の実施
- ・卒業生への追跡意識調査と技能面に関する調査の計画的実施と分析・考察

(3) 今後の改善方策等

①英語科の学習指導について

- ・「Short」で身に付けさせたい「聞く力」「話す力」と「Long」で身に付けさせたい「交流（会話）する力」をより明確にし、本校の目指すコミュニケーション能力を高めるための指導内容・方法の改善を図る。
- ・他教科で学習したことが英語科で生かされるとともに、英語科で学習したことを他教科で生かすための教材開発等を進めていく。

②研究開発内容について

- ・カリキュラム、英語科副読本、発音指導ビデオ、中学校段階への円滑な接続等について研究内容の妥当性を検証する。

4 実践事例

事例1 第2学年

(1) 単元について

① 単元名

「なにしてるの?～ What are you doing?～」

② 本単元でつきたい力

ジェスチャーを交えて目と目を合わせて会話するなど、自信をもって積極的にコミュニケーションを図ろうとする力

(2) 指導のポイント

①指導方法の工夫

- ・音声だけでなく身体表現を通して英語を覚える活動を

多く取り入れることで、英語を話すことへの抵抗をなくしていく。

- ・自分の知りたい言葉をALTやJTEに質問したり、調べたりする活動を取り入れることにより、児童の学習への興味・関心を高め学習意欲を継続させる。

## ② 単元の展開 (全6時間)

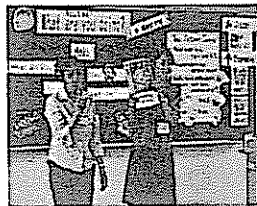
1ユニット【Short 4回(2時間) Long1回(1時間)】

2ユニット【Short 4回(2時間) Long1回(1時間)】

## (3) 実践

### ○動作を交えた歌やチャンツの導入

学習内容の入った歌を選曲し、導入段階から繰り返し歌って覚える活動をした。歌うときの動作は、グループで考えたり、ペアやグループでお互いに紹介し合ったりして毎回歌っていった。



(チャンツのリズムに合わせて練習)

たくさんの動きを表す表現を、はじめはゆっくり正しく発音しながら学習させ、少し慣れてきた段階でチャンツのリズムにのって楽しく発音練習することを取り入れた。自然に体を動かし、リズムに乗って楽しく覚えることができるようにリズムや速さを変えて、繰り返し練習させた。

### ○英語科副読本の活用

毎時間、授業のはじめにPractice Timeを設け、副読本を使用して発音練習をさせた。はじめは、全員で副読本を指さしながら行い、慣れてくると友達同士で聞き合い、自信がつくとHRTに聞いてもらうようにした。

また、家庭学習で「おうちの人に教えてあげて、一緒に覚えよう」という目標をもたせて取り組んだ。練習回数が見えて分かるように練習カードに記入もしていた。

### ○3BIGを意識させためあての提示と振り返り評価

学習内容の定着を図るShortでは、3BIGのめあてを指導者が常に意識して指導に当たった。また、児童にも3BIGのめあてを毎時間示し、授業の終わりには振り返りを積み重ねてきた。

### ○自分の知りたい表現を質問したり調べたりする活動の導入

習った表現以外で自分の知りたい単語やフレーズをALTやJTEに質問し、発音を教えてもらった。教えてもらう表現は、できるだけシンプルで、発音しやすく覚えやすいものにした。児童は、習った表現を絵に描き、自分だけのシークレットカードを作成した。

### ○知りたい表現を友達に紹介する活動の導入

シークレットカードに書いた表現を、友達に紹介する

という活動を取り入れる際に、よりよく相手に伝えるための方法を考えさせた。特に動作をつけることが有効であり、しかも大きく分かりやすい動作をしないと伝わりにくいことに気づかせ



るようにした。また、個人練習の後、グループで紹介し合う練習を取り入れ、より伝わりやすい動作をお互いにアドバイスしながら(動作をつけて会話を行っている場面)考えさせた。

## (4) 成果と課題

- ・授業前後のアンケートを比較すると、「英語学習では大きな動作を交えて相手に伝わるように話す。」と答えた児童が76%→90%に増えた。また、「目と目を合わせて話す。」と答えた児童が69%→86%に増えた。
- ・児童は、毎時間はじめの歌をととても楽しみにし、大きな声で歌ったり、大きな動作で踊ったりできるようになったことを喜んでた。また、英語科副読本を使ったPractice Timeでも励まし合ったり、上手に言えるようになったことを友達同士喜び合ったりする姿が見られた。
- ・児童は、「自分だけの秘密の言葉」を教えてもらったことを大変喜び、意欲的に学習した。また、その言葉を友達に伝えるために個人やグループで動作をつけて練習する活動を通して、3BIGを意識したコミュニケーションのとり方を身に付けることができた。
- ・自分の知りたい言葉を調べ、話せるようになる活動は、児童の意欲を高めるものであった。しかし、各々が選択した言葉は、初めて出会うものであるため、言い方や発音に戸惑う児童もいた。実態と内容、学年系統等との整合性を吟味していく必要がある。

## 事例2 第4学年

### (1) 単元について

#### ① 単元名

「自己紹介をしよう! ~Let's make a speech! ~」

#### ② 本単元でつけたい力

他教科で学んだことを生かし、英語で自分の誕生日や好きなものなどを表情・目線に気をつけながら身振り・手振りをつけて友達に分かりやすく紹介しようとする力

### (2) 指導のポイント

国語科で学習したスピーチメモの書き方を生かし、英語科でスピーチメモを書かせる。相手に分かりやすく伝えるために何をどの順序で話せばよいか、考えて組み立てるようにさせる。

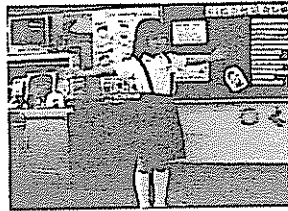
### (3) 実践

○国語科で学習したスピーチメモの組み立て方を生かして、英語科のスピーチメモを組み立てる学習を行った。

- ・今まで学習した英語を使って、どのような自己紹介がで

きるかを話し合わせた。

- ・何をはじめに話したらよいかなど話す順序を考えさせた。
- ・身振り・手振りをつける文には、スマイルマークを貼らせることで相手により分かりやすく伝えようとする意識をもたせた。
- ・意見交流によって内容を見直させ、分かりやすいスピーチメモを書かせるようにした。
- ・自己評価や相互評価をさせたり、今度からどのように話せばよいかを振り返らせたりして、国語科での学びを英語科で生かすことができるように取り組ませた。また、相互評価をさせることによって友達のいいところを見つけさせ、参考にさせた。

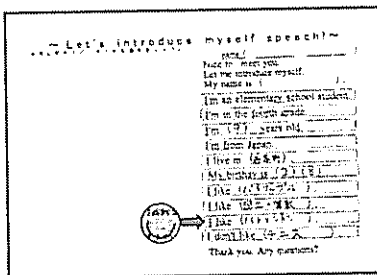


<3BIGを意識させてのスピーチ>

(4) 成果と課題

- ・「国語科で学んだスピーチメモの書き方を生かして、英語科でスピーチメモを書くことができた。」と答えた児童が94%いた。
- ・児童の実態と無理なく合致する内容で、他教科との関連を図っていきたい。また、英語科の学習が他教科にも生かせるように、相互に関連する教材・教具の開発を進めていく必要がある。

(英語科でのスピーチメモ)



※国語科で学んだことを生かしてスピーチメモを作成した。

事例3 第5学年・英語科

(1) 単元の紹介

① 単元名

「友だちの良さ 再発見! ~This is my friend~」

② 本単元でつきたい力

自分の話したい言葉の英語表現を、情報機器を使って調べ、それらを用いて意欲的に友達を紹介しようとする力

(2) 指導のポイント

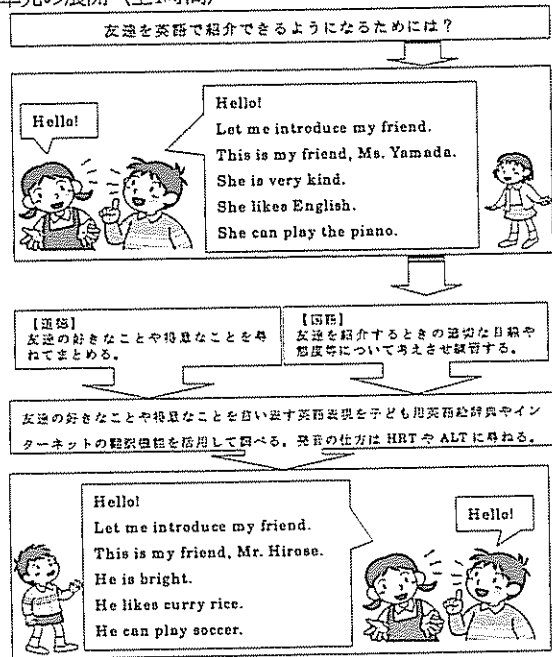
① 指導方法の工夫

問題解決的な学習を進めながら児童の学習意欲を高めるために、次の点を工夫した。

- ・他教科等(国語科、道徳)との関連を図った教材を活用する。
- ・自分が話したい言葉を英語で話せるようにする。子ども

も用英語絵辞典、インターネットでの翻訳機能を活用する。

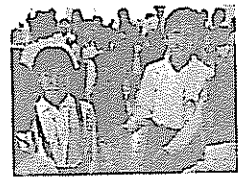
② 単元の展開(全4時間)



(3) 実践

○国語科、道徳の時間との関連

- ・国語科では、友達を紹介したり紹介されたりする時に、大切にしたい目線や態度等について話し合わせる時間を設定し、実際に練習をさせた。

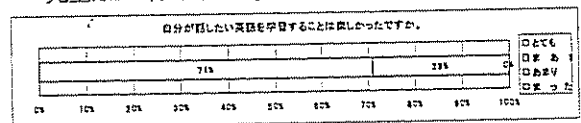
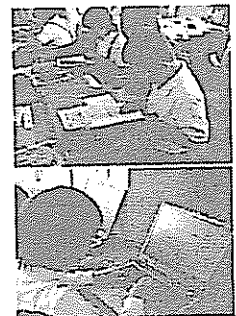


- ・友達を紹介するときの基本的な英語表現を学習させた後、道徳の時間を利用して、友達がより身近に感じられるよう、グループの友達の好きなことや得意なことについてお互いに尋ね合わせる時間を設定した。

○子ども用英語絵辞典、インターネットでの翻訳機能を活用し、自分の話したい言葉の英語表現を調べさせた。

(4) 成果と課題

- ・英語絵辞典やインターネットを使った調べ学習は「楽しかった」と答えた児童が97%いた。また、87%の児童が今後も進んで調べ学習をしていきたいと答えた。
- ・「自分が話したい英語を学習することは楽しかった」と答えた児童は100%であった。



- ・調べ学習に時間をとられる児童もいた。児童の実態と合致した内容となるよう吟味していく必要がある。